

さいたま市立内谷中学校

# 学校だより



第441号 平成29年9月29日

〒336-0034 さいたま市南区内谷6-10-1 TEL 048-861-7571 <http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>



## 「練習の成果 ・ そして発揮、発表」

校長 山浦 麻紀

パンパスグラス  
花言葉：強気な心

平成29年度の「体育祭」が9月16日（土）に多くの御来賓、保護者のみなさまの応援を頂き、盛大に実施することができました。心より感謝致します。予報では雨模様だったお天気も、曇り空で気温も低めで過ごしやすい絶好の一日となりました。そのような中、生徒のみなさんの手の角度や足の開き具合まで全員がしっかりとそろった入場行進や内谷中エクササイズから始まり、1・2・3年生すべての生徒がすべての演技を真剣に行い、走り抜け、多くの感動を伝説へと創り上げてくれました。また伝統の「むかで競争」は各学年の思いや各クラスのプライドの伝わる迫力満点の演技でした。

特に、内谷中での最後の体育祭となる3年生が「レジェント オブ ヒストリー」を目標に力いっぱい演技をしてくれました。実際には、体育祭当日の演技以上に学年練習や放課後のクラス練習でも、誰一人として力を抜く様子もなく、必死に取り組んでくれました。予行や前日準備での様子も素晴らしく、係での動きは勿論のこと、模擬レースでも全力疾走し、後輩にとって最高の手本を示してくれました。今後の学校生活や進路選択でもきっと頑張ってくれることでしょう。実に誇らしく感じます。

新人体育大会が水泳部・陸上部を皮切りに始まりました。3年生からバトンを引き継いだ1・2年生が、夏の間、体力・気力・技術力・そしてチームワークを磨いてきました。「内谷魂」を存分に発揮してくれることでしょう。壮行会でも各部長さんが自分たちの目標を堂々と発表してくれました。頼もしい限りです。試合は練習の成果を、発揮し、発表する場です。大会に勝敗はつきものですが、結果に一喜一憂するのではなく自分たちの成長できる課題をしっかりと見つけて欲しいものです。

保護者の皆様、地域の皆様、新人戦等への応援も引き続き宜しくお願い致します。

## 受 身 — 負ける練習

柔道の練習は受身 受身とは投げ飛ばされる練習 人の前でたたきつけられる練習  
人の前でころぶ練習 人の前で負ける練習です つまり 人の前で失敗したり  
恥をさらす練習です 自分のカッコの悪さを 多くの人の前で ぶざまにさらけ出すことです  
柔道の基本ではカッコよく勝つことを教えない 素直にころぶことを教える  
いさぎよく負けることを教える 長い人生にはカッコよく勝つことよりも ぶざまに負けたりだらしく恥をさらすことのほうが はるかに多いからです だから柔道では  
初めに負け方を教える しかも 本腰を入れて負けることを教える その代り ころんでもすぐ起き上がる 負けてもすぐ立ち直る それが受身の極意 極意が身につけば達人だ

( 中 略 )

負け方や受身のほんとうに身についた人間が世の中の苦しみに耐えてひと(他人)の胸の痛みを 心の底から理解できるやさしく暖かい人間になれるんです

( 後 略 )

あいだみつを詩集より